

やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

新型コロナウイルスの感染拡大で、世界が緊迫している。日本でも健康上の不安ばかりではなく、経済や雇用に影響があり、生活は各地で賄かされている。中止や延期となった伝統行事や催事も多いため、そなたなか3月6日午後に「マスク着用・熱・せきのある人は参加見合わせを」と事前行事案内をして、葛城市足田の調田坐一事ニ古神社でオンド祭りが行われた。

金剛葛城の山並みが目前に迫る近鉄南大阪線足駅。駅のホームでは新型ウイルスへの注意喚起の放送が響いている。これから南に歩いて10分余り、足田の集落の中央に公民館と神社がある。学校が休校となつた子供達の声が賑やかに聞こえてくる。神社境内に進むと入口には消毒液とマスクが用意されていた。

寒さも和らぎ、雲一つない青空のもと、午後3時頃から関係者およそ30人が並び、記念写真の撮影が行われた。そのあと拝殿で祈念祭が始まった。境内中央には、砂を入れて四方ほどの斎田が設けられ、注連縄が張り巡らしてある。いつものように御供撒き用のヤグラを組むが、今年は餅撒きは中止して、袋入餅を手渡しするとい



松葉を苗に見立てて田植えの所作をする=筆者提供

マスク姿で 豊作、安寧を

（奈良民俗文化研究所代表）

う。例年の餅は、二石約300キログラムを公民館で搗ぐが、今年は業者に依頼して作ったという。午後4時ごろ祭典が終わると引き続いて、境内の田でオンド祭りが始まった。冒頭、五穀豊穣・家内安全のために、今年は新型ウイルスへの対策を取りながら行い、と説明がなされる。修祓・祝詞・献饌・玉串奉奠のあと、いよいよ農作業の真似事が始まる。黒い牛面を被った牛役2人を口取りが囁き、カラスキで耕す。同時に鋤と鍬を手にした男が畦切りや畦塗りをする。芸の細かいところだ。ついで牛がマ

ンガを曳いて田を均して田植え準備が整った。昔は二十歳の男が牛役を務め、終わると田から出て参拝者を巻き込んで大暴れしたという。このあと、松葉を苗に見立てて、神職や氏子役員が横一列に並び、後退しながら松葉を地面に置いてていき、田植えを行った。

催事の自潔要請があつたものの一年の豊作と安寧を祈る行事は止める訳にはいかない。東大寺や春日大社など県内各地の社寺でも、新しい感染病が早期に終息するように祈禱が続いている。

（次回は4月8日）